黙想:聖金曜日・主 の受難

黙想のテーマ:「イエスは私 たちへの愛のために受難され た」「キリストの苦悩に寄り 添う」「十字架に私たちの避 難所と救いを見出す」。

<u>イエスは私たちへの愛のために受難</u> された

キリストの苦悩に寄り添う

十字架に私たちの避難所と救いを見 出す

「わが神、わが神、なぜわたしをお 見捨てになったのですかし(マタイ 27・46)。「イエスは完全に見捨て られるという体験をされました。そ れはこの神から最も疎外された状況 の中で、わたしたちにあまねく連帯 されるためでした。わたしのため に、あなたのために、『恐れるな。 あなたは独りではない。わたしは常 にあなたのそばにとどまるために、 あなたの苦悩のすべてを体験した』 と言われるためでしたし言。とりわ け、キリストは、あらゆる時代の男 女が罪の結果として経験する苦しみ に苦悶されます。「エルサレムの娘 たち、わたしのために泣くな。むし ろ、自分と自分の子供たちのために 泣け」(ルカ23・28)。

いかなる人間の苦しみも、私たちを 救うというキリストの決意を断念さ せません。「キリストの、釘で打た れた両腕は、人間一人ひとりに開か れており、キリストが私たちを受け イエスは、私たちが自分自身と他者に負わせた悪を償うために、このにました。神は、私たちにました。神は、私たちにでを取り戻したいと願の愛したいと原のがあれます。私たちなは私たちといます。「わたしの荷は軽い」(マタイ11・30)。イエスが私たつはですく、たちをとがめることはないと

言ってくださるのであれば、私たちの罪は〈最後の言葉〉になりません。「私たちがいつでも立ちあがれるようにイエスはお倒れになったのだ」 [3] ということを、今日思い起こします。

私たちが罪を犯す理由の一つは、神 のみ心が私たちの自由を妨げるもの だと誤解することです。これは、私 たちの最初の父であるアダムに起 こったことです。しかし、神は私た ちが幸せになること、私たちが神に 愛されることを受け入れるよう望ん でおられます。「わたしたちが自由 になるには、自分の真理のうちに立 たなければなりません。神と結ばれ なければなりません。そのときわた したちは本当に『神のように』なる ことができます。神に逆らうこと も、神を排除することも、神を否定 することもなしに。オリーブ山での 苦悩の祈りの中で、イエスは従順と 自由の誤った対立を解消し、自由 の道を開いてくださいました。主 がりたいと思います。神のみ心に 『はい』といえるようにわたしたち を導いてください。そして、わたし たちを本当の意味で自由にしてくだ さい」[4]。

私たちを死から解放するために、進 んで犠牲を受け入れてくださった主 に感謝したいと切望します。イエス は血の汗を流すほど苦しんでおられ ますが、御父への信頼は揺らぐこと なく、祈り続けられます。眠りこん でしまった私たちに近寄り、『なぜ 眠っているのか。誘惑に陥らぬよ う、起きて祈っていなさい』(ルカ 22・46) と繰り返し仰せになります 🖪 。今や、人類のすべての罪がイエ スの無垢な体に降りかかります。私 たちの忘恩は、主を孤独の中に包み 込みます。「あなたと私は口もきけ

ない一。もはや言葉は不要です。ごらんなさい一。目をそらさずしっかり見つめるのです | [6]。

「時に、神は悪に応答せず、沈黙し ているように見えることがありま す。しかし、神は語られ、答えられ ました。その答えは、愛、憐れみ、 ゆるしであるキリストの十字架で す。神は私たちへの裁きのうちに、 私たちを愛しておられるのです。こ のことを覚えておきましょう。 神は 私たちを愛することによって、私た ちを裁かれます。私がその愛を受け 入れるなら、私は救われます。もし 私がそれを拒むなら、私は神によっ てではなく、私自身によってとがめ られるのです。神は決してとがめる ことはなく、ただ愛し、救ってくだ さるのです | 1770

(…) 救いの御皿に清められ、慰められ、強められるために、至聖なる御傷の一つひとつの中に入りこまねばなりません。嵐のときには岩穴にかくれると聖書が語る鳩のように、御傷のもとに馳せよるのです。この隠れ家のなかで、キリストと親しい交わりを始めます | 図。

黙想の中で、今日、教会で歌う力強くて優しい言葉を味わいましょう。 「麗しい幹、幸いな釘、尊い体を 担った木」「町それは「愛、神の計り 知れない愛、そして神の輝かしいし るしです。 私たちが求めることも、

想像することも、期待することもで きなかったこと。神は私たちの上に 身をかがめ、私たちの人生の最も暗 い隅にまで身を下げて、手を伸ばし て私たちをご自身のもとに引き寄 せ、私たちにすべてをもたらしてく ださいました上版。これが聖金曜日 の真理です。十字架上で、私たちの 救い主であるキリストが私たちの尊 厳を回復してくださいました。そし て、私たちはさらに強く、喜んで自 らを主の十字架に釘付け、主の贖い と結びつき、御血によって私たちの 惨めさを清めていただきたいと願い ます。

この祈りの終わりに、私たちは十字 架の足元に目を向けます。そこに は、数人の女性と一人の青年に付き 添われた、悲しみに暮れる御母が 立っておられます。その苦しみはほ かのどんなものとも比べることがで きません。キリストはこのようなと きに聖母が近くにいることを望まれました。私たちも同じです。

- [1] フランシスコ、主の受難・枝の 主日ミサ説教、2020年4月5日。
- [2] ベネディクト十六世、十字架の 道行きの終わりに述べた言葉、2008 年3月21日。
- [<u>3]</u> 聖ホセマリア『十字架の道行』 第3留。
- [4] ベネディクト十六世、主の晩餐のミサ説教、2012年4月5日。
- [5] 聖ホセマリア『聖なるロザリオ』苦しみの神秘、第一の黙想参照。
- [6] 聖ホセマリア『聖なるロザリオ』苦しみの神秘、第二の黙想。

- [7] フランシスコ、十字架の道行きの終わりに述べた言葉、2014年3月 29日。
- [8] 聖ホセマリア『神の朋友』302 番。
- [9] 十字架賛歌(Crux fidelis)。
- [10] ベネディク十六世、十字架の道 行きの終わりに述べた言葉、2011年 4月22日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-sei-kinyou/ (2025/12/15)